

2 0 2 4 年 度 大 阪 府 訪 問 看 護 実 践 研 修 事 業

教 育 ス テ ー シ ョ ン 事 業

市 東 ブ ロ ッ ク 実 践 報 告



社 会 医 療 法 人 大 道 会 訪 問 看 護 S T お お み ち 川 本

市東ブロック 教育ST（2ST）

01. 訪問看護STおおみち（城東区）

2021年度～

02. 訪問看護ST東成おおみち（東成区）

2023年度～

市東ブロック 協力ST（5ST）

01. 訪問看護STカルミア（鶴見区）
02. 日本橋訪問看護ST（浪速区）
03. メンタルラボ訪問看護ST（天王寺区）
04. 訪問看護ST鳳凰（生野区）
05. Sieg訪問看護ST（中央区）

目 標

- 01. 市東ブロックの他職種に対してACP研修を実施し、ACP支援を実践できる人材を育成する
- 02. 認知症、スト-マケアに関連した研修を行うことで、看護師だけでなく市東ブロック内多職種の専門的ケアの質の向上に努める
- 03. 地域住民への訪問看護の周知
- 04. 教育STとして訪問看護ST・医療機関・多職種・地域住民などの相談窓口としての役割を果たす



実践内容 ① 研修事業（集合／ハイブリット）

6 / 21 「認知症の方への食支援」

[対面] 森之宮第2団地6号棟103号室 目標15名／実績12名

[オンライン] ZOOM 目標20名／実績16名



実践内容 ① 研修事業（集合／ACP）

11 / 9 「ACP 支援実践人材育成研修」

@ 大阪市立中央会館 目標50名／実績41名

他職種（CM・介護職員・セラピスト・相談員・学生 等）

他機関（訪問看護ST・病院・クリニック・施設・居宅・包括 等）

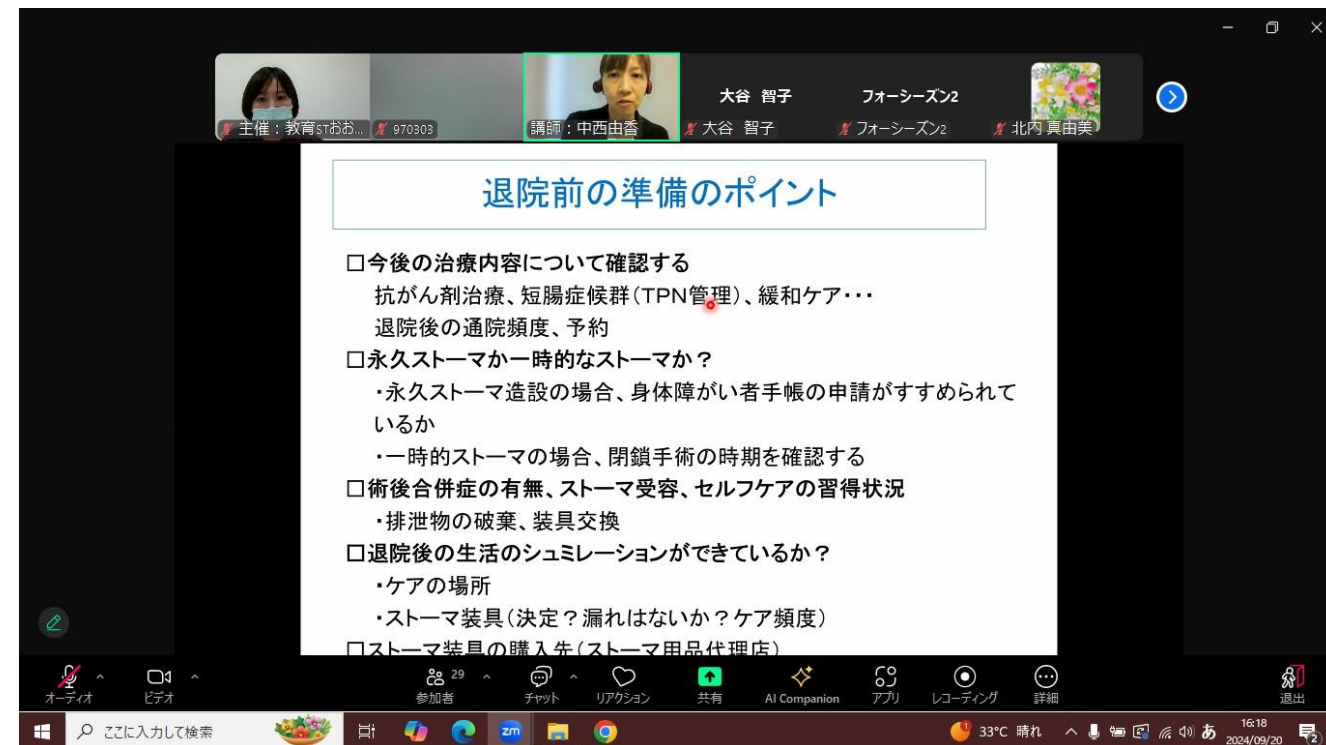


実践内容 ①研修事業（オンライン）

9 / 20 「ストーマケアの基本とよくあるトラブルへの対策」

講師：にしはらクリニック 中西Ns（皮膚・排泄ケア認定看護師）

目標35名／実績32名



実践内容 ②府民への相談支援事業

実施なし

対面：

健康相談については、予定していた地域イベントが中止となり実施できず

チラシ配布：

訪問看護周知としてのチラシ配布は、作成・配布時間がなく実施できず

実践内容 ③ 訪問看護体験研修事業

【看護業務】 目標10名／実績9名

内訳：病院看護師8名・看護協会看護師1名

気づき：昨年度までは病院Ns以外にも訪問Nsや学生などの申し込みがあったが今年度は病院Nsがほとんどであった

「本人や家族の不安や困りごとをよりイメージできた」

「退院支援に繋がっていききたい」

【管理業務】 目標1名／実績2名（新規開設ST）

気づき：新規利用者の獲得についての相談、多職種との連携や地域の特性、各訪問看護STの強みを一緒に考え、振り返りを実施

実践内容 ④ 電話FAX相談Q & A事業

目標10件／実績25件

[相談内容] 報酬関係15件、実務内容7件、指示書／記録関係3件

[相談元] すべて訪問看護ST

[気づき]

報酬改定に伴う報酬関係・実務関連の相談が多かった

改定に関して当STでも分からないことも多かったためその都度所轄へ確認し回答するように心がけた

ブロック内外での協力体制も必要

気軽に相談できる体制はとりつつ、各訪問看護STでも解決できるようなサポート体制を行っていく

設定した目標の評価

01.市東ブロックの他職種に対してACP研修を実施し、ACP支援を実践できる人材を育成する

→目標人数は未達成だが多職種に参加してもらい、様々な視点からACP支援について考え意見交換できた。ACPについて浸透していないことも多く、多職種や地域住民が一緒になって考えられる機会を提供していく

02.認知症、スト-マケアに関連した研修を行うことで、看護師だけでなく市東ブロック内多職種の専門的ケアの質の向上に努める

→ニーズの高い研修内容の企画ができた。NsだけでなくCMにも多く参加してもらうことができ、知識・ケアの向上に繋がったといえる



設定した目標の評価

03. 地域住民への訪問看護の周知

→ 府民支援事業が実施できず、目標未達。訪問看護事業に関してまだまだ地域住民へ浸透していない現状にあり、今後も地域活動を行い健康づくりの推進を図っていく

04. 教育STとして訪問看護ST・医療機関・多職種・地域住民などの相談窓口としての役割を果たす

→ 電話相談は訪問看護ST、体験研修は病院からの申し込みが多い。少しずつ教育ST事業の認知が広がっている。地域の身近な訪問看護STとして活動していく



教育ST事業の全体効果と次年度課題

- ・ 前年度に引き続き2STで取り組み、協力し合いながらできた
- ・ ACP研修：多職種が対象となり広報活動に苦慮。協力ST以外に市東ブロック理事や各区の役員にも協力要請し周知できた
- ・ 4期にわたり教育STを担うことで地域の特性・ニーズを知ることができた。新規開設STが多い一方閉鎖・中止するSTも多く、どのように市東ブロックの訪問看護STの経営の安定化や質の向上を図っていくかは喫緊の課題。今後も教育STを中心に質の向上に努めていく
- ・ 教育ST事業の広報、研修参加や他事業への参加について地域格差が大きい
- ・ 横のつながりが増えた。一方で事業の負担も大きく、継続していくためには工夫しながら内容や方法を検討していく必要がある

